

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	介護保険特別会計 介護保険料賦課徴収業務	会計	介護保険	事業No.	225	施策順No.	35-034
		事業種別	政策・その他	予算科目	1-2-1-10-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	12	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	介護保険の被保険者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		被保険者数(人)		29007	29795	29888	29605	
意図	介護保険被保険者証の交付、介護保険料の賦課を適正に行うことにより安定した制度運営を確保し、高齢者が安心して暮らすことが出来る。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	被保険者証交付者数/被保険者対象者数	100	100	100	100	100	100	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	新規の被保険者証交付者数の合計は1,223名(内、65歳年齢到達者1,018名、転入100名、住所地特例59名、2号申請40名、その他6名)							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	介護保険の被保険者は、飯田市に在住する満65歳以上の高齢者。被保険者の対象者を的確に把握し、被保険者証を交付するとともに介護保険料を賦課する。転出者・死亡者等は被保険者から外れるため、介護保険料を精算し、還付等の手続きを行なう。保険料の徴収は、特別徴収(年金からの天引)が約9割あり、残りが普通徴収であるが、普通徴収の収納業務は納税課で担当している。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	65歳年齢到達者・65歳以上の転入者等の資格取得者を把握し、被保険者証の交付及び介護保険料の賦課を行う。転出者・死亡者等の資格喪失者を把握し、介護保険料の精算を行う。被保険者全員に対して、介護保険料の納付書又は特別徴収通知書を交付する。第4期(平成21年度～23年度)介護保険計画による介護保険料の改定に伴い、特別徴収(年金からの天引き)額の平準化を行い、年間通じて、毎回同額程度となるように、6月・8月の特別徴収額を調整する。	介護保険被保険者数(人) 特別徴収対象者数(人)	29888 28061
23年度実施計画	65歳年齢到達者・65歳以上の転入者等の資格取得者を把握し、被保険者証の交付及び介護保険料の賦課を行う。転出者・死亡者等の資格喪失者を把握し、介護保険料の精算を行う。被保険者全員に対して、介護保険料の納付書又は特別徴収通知書を交付する。第5期(平成24年度～26年度)介護保険計画に伴う介護保険料の改定の準備を行う。	介護保険被保険者数(人) 特別徴収対象者数(人)	29605 28180

3 事業コスト

事業費	(千円)				特定財源内訳、補足事項
	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額		
特定財源	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
一般財源		12,740	9,729	9,979	
	計(A)	12,740	9,729	9,979	
	正規職員所要時間				
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		0		
	トータルコスト A+B		9,729		

4 事業に対する市民や議会の意見

介護保険制度を実施する上で、必要不可欠なものであるため、理解は得られている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	支援を必要とする高齢者及びその世帯が、安心していきいき暮らせる。	施策の成果指標又はムツ指標	安心して暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	市民課や介護保険施設と連絡をとることで、被保険者の住所変更や施設入退所を把握し、正確な資格管理を行った。		
	後期に向けた課題	今後も関係各所と連絡をとり、継続して実施する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	被保険者への通知文書に、それぞれの個別の状況に応じた補足文書を同封することで、制度理解を働きかけた。		
	後期に向けた課題	制度理解を助ける、より明確な通知文書、パンフレットの作成。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	別々に送付していた関連性のある通知を、同封してまとめて発送し、郵送回数の削減をした。		
	後期に向けた課題	継続して実施していく。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	介護保険料算定における所得段階は、国の標準が6段階制である。飯田市は平成18年度～20年度は7段階制、平成21年度～23年度は8段階制を導入し、低所得者への配慮を行っている。		
	後期に向けた課題	普通徴収における納付率の向上。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してみましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	正確な資格管理を行い、被保険者に適正な介護保険料の賦課をすることで、安定した制度運営のための財源の確保が出来た。		
	後期に向けた課題	第5期(平成24年度～26年度)介護保険計画に伴う、介護保険料の改定。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------